

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の卒業後をみすえ、「チャレンジ・つながる・自立」を合言葉に、生徒の豊かな個性を活かしつつ、すべての教育活動を生徒の自立への力の育成と支援者の拡大につなぐ学校づくりをめざす。

併せて、生徒一人ひとりが、安全に、また、安心して学ぶことができる学校づくり、地域の人々や関係機関等から信頼される学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 今後のインクルーシブ教育を見据えて、生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程及び授業内容等の充実を図る。

(1) 生徒の多様性と社会状況の変化をふまえ、それぞれのコースの教育課程について検証し、必要な改善を行う。

教育課程の更なる充実に向けて、基礎学習・作業学習の見直しなど必要な改善を行う。併せて、研究授業等の充実などを通じて、教職員が主体的に授業改善に取り組むための環境を整える。

*今後の作業学習のあり方を検討するとともに、継承できる人材を育成する。

*研究授業、公開授業等を活性化し、授業内容の改善及び充実を図る。

(2) 職場実習・校内実習等の機会を通じて、生徒のチャレンジ意欲を育むとともに支援者を拡大する。

コース間の相互連携を強化し、職場実習・校内実習等の機会を活用し、生徒のチャレンジ意欲を高めるとともに、支援者の拡大につなげる。

生徒の成長の指標となるキャリアプランニングマトリックス表を作成し、すべての教育活動を通じて生徒の自立にむけた取組みを進める。

*生徒の状況をふまえつつ、それぞれのコースにおける校内、校外実習の多様化及び実習内容の充実を図る。

*キャリアプランニングマトリックス表を指標として、それぞれのコースにおける生徒の自立にむけた取組みを進める。

*T T A Pを活用し、キャリアプランニングマトリックス表とも関連付けながらキャリア教育の充実をはかる。

(3) 個別の教育支援計画、指導計画等の充実

生徒の多様性をふまえ、長期目標、短期目標設定を明確にするとともに、保護者参画の更なる充実を図る。

*一貫した支援のツールとなるよう中学校等や卒業後の進路先との連携を図り、生徒、保護者の活用を促進する。

*指導に必要な情報を整理共有化し、活用化を図る。

2 支援教育力の向上

(1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図る。

専門家との連携による教職員による事例検討及び生徒、保護者を対象とした教育相談の充実を図る。また、健康保持の基礎ともなる口と歯の健康教育の更なる充実を図る。科目として新たに位置づけた「ライフスキル」について更に指導内容の充実を図る。

*専門家との連携により教育相談の充実、授業の充実、経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。

(2) 部活動、生徒（生活）指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を育成する。

部活動をはじめ、課外活動の充実を図り、生徒の主体性、社会性、忍耐力等を育む。また、生徒の規範意識及び集団生活の基礎となる力を育成するため、自己肯定感の育成を柱に生徒（生活）指導の充実を図る。

*生徒像やニーズの変化に対応した部活動指導の充実を図る。

(3) センターの機能の役割をしっかりと果たすとともに地域連携の充実に努める。

これまでの事例検討や研究成果を活かし、思春期における性に関する指導、ソーシャルスキルトレーニング（SST）等での分野での支援の充実を図る。また、高等部単独校として、生徒の卒業後の自立をみすえ、関係機関との協働による取組を強化し、その成果を発信する。併せて、地域支援の活動を通じ、とりわけ比較的経験年数の少ない教職員の支援教育力を高める取組を進める。

(4) I C Tを活用して支援教育力の充実を図る。

タブレット型P Cや電子黒板等を活用した授業ができる教員を増やし、ノウハウを発信する。校務分掌の各種情報の共有化を図るとともに授業や教材等のライブラリ化に取組み、技術・技能の伝達がスムーズに行えるシステムを構築する。

3 生徒が安全で安心して学校生活をおくることができる学校づくりを進める。

(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒の人権を尊重する学校づくりを進める。

*学校協議会員との協働による教職員研修の充実等に取り組む。

(2) 防災計画やB C Pを柱に、防災教育を計画的に推進し、危機管理体制を更に堅固なものとする。また保護者や地域との連携のもと、災害時に備えた通学時の安全確保及び必要な備蓄品等の整備を行う。

*P T A活動との連動を柱に進める。

*地域との連携を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 提出率について 生徒 (90.4%、0.4%増)、保護者 (59.1%、5.1%減)、教職員 (100%) 昨年度アンケート項目が多く、同じような質問もあり記入しにくいという声が保護者教員よりあったので、記入しやすい項目数に絞って提出率増を期待したのだが、保護者に関しては減になってしまった。ただ質問内容に関する不満は全く出なかったため精査したのはよかった。提出率増は教員と同じように、提出のお願いを度あるごとにするのが効果的と思われる。</p>	<p>第1回 (7/1) ○平成28年度の学校経営計画について ・昨年度の学校協議会の意見を取り入れた学校経営計画を今年度つくっていただいた。学校経営計画がグレードアップしたと評価している。 ・高等部に入ってから急に自立を求められるようになり保護者には戸惑いもあるようだ。中学校から高等部に入学する際の本人・保護者への意識づけが必要であるとともに、できるだけなだらかに移行できるよう中高の連携をよりいっそう図っていくべきである。 ・卒業後の定着支援については就業生活支援センターが中心となって行なっている。今後ともバトンタッチの時期や方法について学校と連携を図っていきたい。</p>

<p>2 満足度（よくあてはまる+ややあてはまる）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度項目を改め大幅に項目数を削減したので、単純な比較はできないが、生徒・保護者・教職員とも昨年度より減少した。 ・特に一年生の保護者の提出率と満足度が低く、状況分析を行うとともに必要な対応策を講じていくことが課題である。 <p>3 各項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくあてはまるの1位は、生徒：頑張ったことを認めてくれる（80.0%）、保護者：授業参観や学校行事に参加したことがある（73.5%）、教職員：実態を踏まえ、指導内容や指導方法の工夫・改善を行っている（54.2%）と、生徒は認められること、保護者は学校行事に関すること、教職員は生徒支援に関することが上位を占めている。 ・生徒は特に気持ちに関する支援を先生にしてもらっていると多く答えており、教職員の生徒支援の思いが伺える。 ・保護者において昨年度よりよくあてはまるの増加率の1位は子どもの健康な体づくりに取り組んでいる（12.3%増）で保健指導や新科目「ライフスキル」の取り組みに対する評価が高まっていると思われる。 ・教職員においては、まったくあてはまらないで唯一10%を超しているのは「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担、教職員が意欲的に取り組める環境」で、生徒数減に伴う教員の人数減の影響がでて、多様な仕事を忙しくしている実態が出ていると思われる。 ・全体的には満足度で60%を切っている教員研修に関する3項目（授業方法の検討・初任者研修・研修の伝達）の改善が必要と思われる。 	<p>第2回（11/4）</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断がフィードバックされ次年度の取組みに生かせるように時期や返し方を工夫されることを期待している。 ・保護者用アンケートについて、自由記入欄は裏面にするなど、より見やすく書きやすい様式にするのがよい。 <p>○学校経営計画の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の育成について、キャリアがそれぞれ異なる多数の教職員がいる。課題の共有といってもレベルが違う。工夫が必要だと思う。 ・支援教育力の向上について堺市では、初任者に元校長などの専門指導員がつき、指導案作り、研究授業に取り組んでいるが、育成されて力がついている実感がある。 ・保護者として実習先開拓に力を入れているのがうれしい。企業に実習に行きたいが、校内実習の人がたくさんいる。行きたい人にチャンスがあるようにしてほしい。 ・実習場所の確保として、中小企業家同友会の集まりに参加してお願いすることもできる。ハローワーク主催で就労移行支援事業所の紹介があった、利用等参考にしては。企業の合同説明会や面接会に参加し、雰囲気を知ることが良い体験になる。 ・高等部と小中学部の連携を大切に思う。中学部が進路に関する研修を高等部進路より受け、キャリア教育の視点を持ってよかった。これからもより一層、中学部と高等部の連携が深まるような取り組みをお願いしたい。 ・進路指導に関しては到達点より、プロセスの評価が大切に思う。その人の「今」だけでなくどんな希望があるかを知り、どうしていくかが大切である。願いを実現していくプロセスを把握し、就労に向けてなぜ、ここを改善するかを明らかにして伝えることが大切である。 <p>第3回（1/20）</p> <p>○学校経営計画、自己診断の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様性に対応する観点からも、防災上の支援学校の果たすべき役割の観点からも、広い視野を持ち、様々な障がいのある人への対応できる教員を育てることが必要である。 ・進路指導については、これからも関係機関との連携のもと、離職率0をめざされたい。 ・家庭環境が厳しくなったり、SNSの浸透により、保護者間のよりよいつながりや教職員との関係性の構築に一段と配慮が必要な時代となっている。 ・長時間勤務の縮減が求められる中、子どもと関わる時間を確保するためにスクラップできるところはしていくことが必要である。 ・よりよい学校づくりのためにこれからも孤立せず、関係機関とのつながりを大切にしてほしい。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(進捗)
1. コース制の更なる充実	<p>(1) 生徒の多様性と生徒、保護者のニーズに合致した教育課程の平成29年度からの実施に向けて、検討を実施する。</p> <p>ア 作業学習の教育課程の検討を行う。</p> <p>イ 仮称教科「保健」の教育内容の充実に向けて取り組む。</p> <p>ウ 研究授業・公開授業等を通じた指導力向上を図る機会を整える。</p> <p>(2) 生徒の自立をみすえ、職場実習機会をはじめとする校内外での実習内容の多様化と充実を図り、生徒のチャレンジ意欲を向上する</p> <p>ア 関係機関との連携による校外実習の多様化と充実</p> <p>イ 校内実習の内容充実及び機会を拡大する。</p> <p>ウ インクルーシブ教育を見すえ、高校との連携による共同学習を進める。</p> <p>エ 生徒の希望の進路実現に向けて、進路指導の充実を努める。</p> <p>(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実を柱に、授業を充実するとともに、必要な情報の共有化を図る。</p> <p>ア 中学校等との連携を強化するとともに、保護者との連携により、卒業後の進路先への円滑な引き継ぎを実現する。</p> <p>イ 必要な情報の整理・共有化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 作業学習について、今後の継承も視野にいたれた教育課程や指導内容の検討等を行う。</p> <p>イ 既存の教科・科目の指導内容の充実を図るため、教材や指導案の整理・蓄積を行う。</p> <p>ウ 教科内での研究授業や公開授業を進めたり、ビデオ等を活用した授業研究に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>アイ 福祉事業所・企業・関係機関との更なる連携を図り、教科「実習」の時間も活用しての職場実習や校内実習の多様化と充実を図る。A型事業所の作業内容を見極め今後の進路に生かす。</p> <p>ウ 引き続き高等学校との連携による共同学習を行い、インクルーシブ教育の在り方を検討する。</p> <p>エ 進路指導のノウハウや情報をデータベース化し、スムーズに引き継ぎができるシステムを構築する。生徒の意欲を引き出し、自立にむけて指導指標となるキャリアプランニングマトリックス表を更に充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 中学校との引き継ぎ連携を強化するとともに、卒業後の引き継ぎに活用されるような工夫を行う。</p> <p>イ 指導に必要な情報が、常に整理され、共有化され、活用できるように更にシステムを整える。引き続き個人ファイルの整理・管理を活用しやすく整えるとともに、校務情報のデータベース化・共有化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 課題を整理し、具体策を立てる。</p> <p>イ 本校の教職員が活用しやすい教材データベースを作る。</p> <p>ウ 教科内での研究授業を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 新たな職場実習先（目標5か所）を開拓したり、新しくできた福祉事業所での実習（目標2か所）を積極的に行う。新たな職場実習先の開拓にあたっては、企業団体へのアピールも積極的に行う。</p> <p>イ 校内実習の多様化・充実を図る。</p> <p>ウ 高等学校との連携による共同学習の内容を一層充実させる</p> <p>エ 卒業後の進路について、生徒の状況をふまえて、在宅となる生徒を0%とし、就労率を可能な限り向上させ、前年度卒業生の離職率を0とする。年度末までに泉北高等支援版キャリアプランニングマトリックス表をブラッシュアップし、他へも発信する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 中学校との連携を強化し、入学前後の引き継ぎをより確かなものとする。（中学校からの個別の教育支援計画提出率を50%にする）。</p> <p>イ 個人ファイルの整理と管理をさらに進める。校務情報のデータベース化を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「製パン」「縫製」を担当できる教員が増え、「窯業」開講の可能性も出てきたが、次年度以降の生徒増への対応を考えると課題が残る(△)。</p> <p>イ 共有フォルダーにデータが集約され充実してきている(○)。</p> <p>ウ 初任者が3人配置され、ライフスキル・美術・基礎学習の研究授業を行うことができた(○)。</p> <p>(2)</p> <p>ア 新たな職場実習先8箇所を実習。新規事業所での実習は6箇所。中小企業家同友会との情報交換を行った(◎)。</p> <p>イ 校内実習に新たな協力先から新作業を導入(○)。</p> <p>ウ 成美高校との共同学習では、今年は障がい者スポーツに取組んだ(◎)。</p> <p>エ 今年度の見通しとしては、6人就労。昨年度の離職は0人。キャリアプランマトリックスについては、さらにブラッシュアップし、実践報告集で発信(○)。</p> <p>(3)</p> <p>ア 中高連絡会で本校の取組みを発表し、個別の教育支援計画の提出についても各中学校や自治体に依頼(△)。</p> <p>イ 夏休みに整理した。600kg廃棄した。管理方法を新たに定めた。ネットワークフォルダーを活用してデータベース化を進めている(○)。</p>

2. 支援教育力の充実	<p>(1) 思春期の生徒への支援の充実を図るため、専門家の活用及び健康教育の充実を図る。 ア 専門家との連携による事例検討、教育相談を充実し、ノウハウの蓄積を図る。 イ 専門家や外部協力者を招聘した授業の充実を図る。</p> <p>(2) 部活動、生徒（生活）指導等の充実 ア 生徒像やニーズに対応した部活動をはじめとする課外活動の内容充実に取り組む。 イ 規範意識の育成や社会のルールやマナーを身に付ける取組を充実させる。 ウ インターネットトラブルの防止や情報モラルの育成に取り組む。 エ 政治的教養を育む教育を推進する。</p> <p>(3) センターの役割の発揮及び地域連携の更なる充実を図る。 ア 地域支援ブロック内の地域の小・中・高等学校等への支援をより一層充実させる。 イ 研究成果を冊子やホームページ等で発信するなど、発信方法の充実を図る。 ウ 比較的経験の少ない教職員の支援教育力の向上を図り、ミドルリーダーを育成する。主任等への若い人材の登用を進める。</p> <p>(4) ICT を活用して支援教育力の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 専門家との連携による事例検討や職員研修を充実し、ノウハウの蓄積や発信を行う。 イ 授業においても専門家や外部協力者の活用を積極的に図る。</p> <p>(2) ア 大会参加や資格取得、発表の場を設けるなどの目標を設けたり、新たな活動を模索するなど、活動内容の充実を図る。 イ ホームルームや学校行事、部活動や生徒会活動やアドプロードなどの奉仕活動等を通じ、規範意識や人を思いやる心の育成に努める ウ インターネットのトラブル防止や情報モラルの育成について各学年の「情報・英語」の授業等で取り組む。 エ 生徒会選挙の場等を活用し、政治的教養を育む教育を行う。 オ 学校ゆるキャラ「せんぼくん」を活用する。</p> <p>(3) ア 堺市内の小・中・支援学校等との連携を強化する。 イ 性に関する指導等の実践的研究を継続、発展し、冊子やホームページ等を活用し、研究成果を広く発信する。 イ 授業実践や教材等の成果についてもホームページ等を活用して広く発信する。 ウ 比較的経験の少ない教職員の校内研修の機会を充実させる。先輩教員の授業を見たり話を聞く機会を充実させたり、積極的に主任等に登用するなど、計画的に育成する。</p> <p>(4) ア タブレット型 PC や電子黒板等を有効活用した授業を増やす。 イ 校務での ICT の有効活用を図り、仕事量を軽減する。</p>	<p>(1) ア 思春期におけるさまざまな課題をふまえ、専門家との連携による職員研修等の機会を拡大する（専門家の活用前年度比 10% 増）。 イ 企業の社会貢献事業や地域の人材シルバーアドバイザーなど様々な外部協力者の活用をはかる。</p> <p>(2) ア 部活動に参加する生徒数の拡大（前年度人数より増やす）。 イ 道徳教育に関する取り組み状況を向上させる（教職員の学校教育自己診断を指標とし、あてはまるを 70%以上とする）。 ウ 全学年の授業でインターネットトラブル防止や情報モラルの育成について取り組む（それぞれの学年で 1 回以上取り組む） エ 投票等、できるだけ実際の選挙に近い形を経験させる。 オ 着ぐるみ「せんぼくん」を 3 回以上活用する。</p> <p>(3) ア 地域支援へ行く人材を増やす（新たな人材を 1 人以上養成する）。 イ これまでの研究を継続し、研修会や本校ホームページ等において、その成果（指導内容、教材等）を発信する。 ウ 研究授業、公開授業等、先輩教員の授業を見たり話を聞く機会を増やす。</p> <p>(4) ア ICT を有効活用した授業を増やす。（学校教育自己診断を指標とする） イ 校務分掌での ICT の有効活用を図る。</p>	<p>(1) ア 今年も夏休みを中心に大学教授等の研修や学校医による研修を行った活用 10%増 (○)。 イ シルバーアドバイザーの活用は卒業生のサークルに利用、学生ボランティアも人材バンクに登録して協力をしてもらっている。地域人材も協力を申し出てくれている (○)。</p> <p>(2) ア 南中ソーラン部、陸上部、美術部、ワープロ部など部活動への参加が増えた (◎)。 イ 道徳と意識せずに行っている部分が多いので、意図的にかかわることができるように図っていききたい 85% (◎)。 ウ インターネットトラブルについては、PTA 研修で南堺警察から署員に来てもらっていただいた資料をもとに、各学年で指導 (◎)。 エ 前期・後期ともに実施。選挙管理委員会からの説明も受けた (◎)。 オ 活用した (○)。</p> <p>(3) ア 新たにコーディネーターを 2 人養成した (○)。 イ 発信中。今年度は 3 年に一度の本校の紀要作成年度。年度末には発行 (◎)。 ウ 公開授業週間を設け他の教員の授業を見る機会を確保するとともに、初任者がいない教科においても授業研究が行われた (○)。</p> <p>(4) ア 増えている 76% (◎)。 イ 職員会議のペーパーレス化を図った。それぞれの分掌で、ネットワークフォルダーを活用し、引継ぎ等に利用した (○)。</p>
3. 安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができる学校づくりを進める。 ア 教職員が生徒一人ひとりの人権を尊重する態度を養うことができるよう研修機会等の充実を図る。 イ 学校協議会との連携により本校の安全で安心な学校づくりを進める体制を整える。 ウ より実態に即した学校評価の在り方を検討する。</p> <p>(2) 災害時等における生徒の安全確保の取組を強化する ア 年間を通して系統的な防災学習を実施する。 イ 災害時に備えた備蓄サイクルを確立する。 ウ 地域との連携を図る。</p>	<p>(1) ア 教職員の生徒の人権を尊重する態度を養うため、保護者や関係機関等の協力を得て、研修の機会を設ける。 イ 学校協議会委員の参画により、人権尊重をテーマとした職員研修を開催する。 ウ 学校教育自己診断の項目を見直す。</p> <p>(2) ア 生徒の災害、不審者侵入等に対する知識を高め、危機対応力をつけるため、防災学習等を系統的に実施。 イ PTA 活動との連携により、備蓄サイクルを確立する。 ウ 堺市危機管理室との連携を図るなど、外部への発信や協力体制を構築する。</p>	<p>(1) ア 保護者の立場から、教職員に期待することについて話を聞く機会を設ける。 イ 学校協議会委員が参画する職員研修等を開催する。 ウ 新しい学校教育自己診断で保護者の提出率を向上させる。</p> <p>(2) ア 各学期に、防災等をテーマとした授業を系統的に実施。 イ 府の備蓄品の分散備蓄の活用を含めたサイクルを確立する。 ウ BCP に基づいた防災訓練を、PTA や地域と協力しながら実施する。</p>	<p>(1) アイ PTA 会長ならびに本校教職員から保護者の立場で教職員に講話してもらうことができ、研修の成果が上がった (◎)。 ウ 回答しやすいように項目を見直し、大幅に削減したが、提出率は向上しなかった (△)。</p> <p>(2) ア 実施している (◎)。 イ 府の備蓄品の分散備蓄については、止まっているが、個人での備蓄のサイクルは確立させ、準備している (◎)。 ウ PTA とは協力済み。地域とは今後の課題 (○)。</p>